

# MEIJI MURA

明治村だより

2021 Autumn

Vol.104



## CONTENTS

明治村の建築にみる日本近代青春群像物語 2 …02

理化学実験場ができるまで(二) …04

A La Meiji-Mura

「移民の家」がつかないだ絆 …06

工部省品川硝子製造所跡出土の瓦と耐火煉瓦 …07

## 博物館明治村 協賛会員 募集案内

博物館明治村では、歴史的建造物の修繕や展示など村内整備の充実を図るため広く皆様のご支援を募っています。

### 1. 法人会員の種類と会費(各1口あたり、消費税込)

- 一般会員 10万円
- ゴールド会員 100万円

### 2. 会費の使途

明治村で展示・保存されている建造物の修繕や、村内の整備など公益目的事業費に充てさせていただきます。

### 3. 会員期間

入会日より1年間  
(入会月の翌年当期末日まで)

### 4. 会員の特典

- 会員証(記名式)の発行
- 招待券の贈呈
- 刊行物等の贈呈
- 芳名の掲示
- 法人名の銘板付きベンチの設置  
(ゴールド会員のみ)

### 5. 問い合わせ先

公益財団法人明治村 協賛担当  
住所: 〒484-0000  
愛知県犬山市字内山1番地  
TEL: 0568-67-0314  
E-mail: meiji-info@nrr.meitetsu.co.jp

### 協賛会員 (令和3年9月1日現在)

敬称略:五十音順

#### ゴールド会員

大成建設株式会社

矢作建設工業株式会社

#### 一般会員

アイカ工業株式会社

アサヒ飲料株式会社

アサヒビール株式会社

厚見建設工業株式会社

株式会社安藤・間

株式会社磯部組

株式会社伊藤園

伊藤忠商事株式会社

因幡電機産業株式会社

株式会社魚津社寺工務店

株式会社エイムクリエイツ

株式会社NTTドコモ

株式会社NTTファシリティーズ

株式会社大塚商会

株式会社大林組

岡谷鋼機株式会社

株式会社オノコム

鹿島建設株式会社

株式会社関電工

キリンビール株式会社

キリンビバレッジ株式会社

株式会社熊谷組

株式会社鴻池組

コクヨマーケティング株式会社

五洋建設株式会社

株式会社サイマックス

サッポロビール株式会社

佐藤工業株式会社

三幸エステート株式会社

サントリーコーポレートビジネス株式会社

株式会社シーイーテック

柴山コンサルタント株式会社

清水建設株式会社

株式会社新高土木

株式会社スペース

株式会社銭高組

株式会社扇港電機

ダイキン工業株式会社

大興建設株式会社

大成ユーレック株式会社

ダイドードリンコ株式会社

株式会社竹中工務店

株式会社谷澤総合鑑定所

株式会社丹青社

中京テレビ放送株式会社

中部スターツ株式会社

鉄建設株式会社

東京海上日動火災保険株式会社

株式会社東芝

東洋電機製造株式会社

戸田建設株式会社

名古屋トヨペット株式会社

西日本電信電話株式会社

西松建設株式会社

能美防災株式会社

株式会社日立製作所

株式会社ファミリーマート

株式会社フジタ

株式会社不動テトラ

ホーチキ株式会社

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

前田建設工業株式会社

三井住友海上火災保険株式会社

三井不動産株式会社

三井不動産ビルマネジメント株式会社

三菱商事株式会社

三菱電機株式会社

三菱ふそうトラック・バス株式会社

名高土木株式会社

名鉄EIエンジニア株式会社

名鉄環境造園株式会社

名鉄ビルディング管理株式会社

株式会社森本組

株式会社ヤシマキザイ

若松物産株式会社

### 表紙について

秋深まる旅路/撮影:金原智  
三等客車ハフ13 製造所:新宮鉄道株式会社 明治45(1912)年

「明治村だより」第104号(令和3年 秋号) 令和3年9月14日発行

発行 博物館明治村 〒484-0000 愛知県犬山市字内山1番地 電話 (0568)67-0314 <https://www.meijimura.com>  
製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」  
第105号発行のお知らせ

発行時期 令和3年12月中旬予定  
申込方法 「明治村だより」第105号ご希望の旨およびご住所・お名前を明記の上、送料(含発送手数料)140円とともに現金書留にてお申込みください。

# 初期木造洋館ベランダの華やぐ意匠と二重化の謎 (下)

## 西郷従道邸にみる明治維新の光と影

館長 中川武

### ベランダの二重化が意味するもの

日本の上流住宅の伝統に照らして言えば、従道邸は数寄屋風のお茶屋にあたるものであり、広大な日本庭園の中に西洋人賓客を招くための簡易な開放的な遊興施設の感がある。一階ベランダからの庭園の眺めが期待されていただろう。東側中央の出入口には、玄関構えはなく、庇をつけただけなのはそのためかもしれない。従道の死後も西郷家の親族によって住み継がれ、様々な改造の跡も確認される<sup>註1</sup>。

現状の従道邸の見どころは、控えめながら、内装の暖炉<sup>写真4</sup>、フランス窓の額縁、カーテンそして階段手摺と天井廻縁蛇腹の呼応するデザイン<sup>写真5</sup>、まさに洋風の食堂、居間の室礼<sup>写真6</sup>とサービス道線の工夫等々<sup>写真7</sup>があるが、なんとといっても、従道邸の核心は二重のベランダに尽きるであろう<sup>写真8</sup>。

従道邸の寸法計画は柱真々制の一間を一八・八mmとする尺寸の尺度を使用しているが<sup>註2</sup>、梁間を二分分する南端の二つの部屋

の開口部は六尺三寸とし、ベランダの張り出しは一間、さらに中央部は一間の円弧状の張り出しとし、母屋の柱間とは微妙に位置をずらしている。特に東西側面の南面に続く出窓の二階部も含めた二重目のベランダ軒飾りの環珞と手摺子の切り抜き板は、円弧状の張り出しの曲線と相まって、動的な軽快感と華やかさを醸し出している。南端部以外の軸部側面壁平滑な下見板張りに抑えられていることが二重ベランダの陰影と繊細な動きを対比的に印象深いものとしているといえよう。

南北の妻面には換気ガリ窓が残されているので、ベランダの二重目は後補であることはあきらかだが、創建時の姿に近いものを写真に見ることが出来る<sup>写真9</sup>。ベランダの二重化だけでなく、初重ベランダそのものも、いつ誰の手によったものかは現在のところ確定しない。しかし、少なくともベランダが一重のものと同重のものとの両者の違いには何か深い意味が秘められているようにも思われる。維新期の大河物語の伏流として考えれば、以下のような見方もありえ

るだろう。

### 大西郷の呪縛と救済

十六歳上の兄・隆盛は西郷従道にとっては父親同然であっただろう。しかも維新後すぐにこんなはずではなかったと維新政府に反旗を翻す兄や次兄に対し、逆に維新政府で重きをなしていく従道は、兄に対する複雑な想いをより深めていったことは想像に難くない。



写真1 1階ベランダからの望む庭園風景



写真2 2階ベランダからの景色



写真3 東側出入口には小さな庇屋根だけが付く

写真家クラフトが撮影した一八八二年頃の従道邸と、前後したときのものであろう庭園内と書院縁側前の従道自身の表情は、顎髭の逞しい明治の軍人、政治家の顔と周囲に気を遣う繊細さが同居したのように見える。

通常明治初期の上流住宅は、それまでの伝統的書院の和館に、文明開化生活のための洋館を別棟として併設する。しかし先にも述べたように従道邸は本格的な洋館とは言えない。明治二十二年五月の天皇行幸と、皇后皇太后行啓時の新聞には、天皇が庭で相撲を観戦し、二階ベランダの張り出し、中央部に玉座

が設けられたこと、皇后皇太后が新築の書院前の芝原で観舞されたとの記事が紹介されている<sup>註3</sup>。この際の書院については、旧薩摩藩棟梁伊集院某の設計との説もあるが、その位置についてはこれも確定できない。少なくとも一八八二年クラフトの撮影時には従道邸が併設されるべき位置に和館がなかったことは確かめられるので、冬の季節感が余計に雰囲気を実際させているのであるが、一重だけのベランダの写真はどこか悲愴感さえ漂わせているように見える。

明治四年前後に隆盛は、目黒の従道邸に居住していたという説がある。その建物も確認されないが、現従道邸の建設は、西南の役の後であり、いずれにしろ従道邸の建設には隆盛

への想いが断ち切れないで残っていたはずであり、それが一重のベランダというやや思い切りの悪い、華やかなように抑えたデザインになっている。

ベランダを一重から二重化にした経緯、時間差は分からないが、デザインの置きまりは当初からの計画のように処理されている。ここにも、二重化に伴う憶測やためらいが窺われるのである。

ベランダの二重化と天皇の行啓は直接の関係はないとはいえ、それが契機に劇的に隆盛の汚名返上、恩赦、上野西郷像プロジェクトなどが進展をしたことを思うと、明治維新の進展を背景として従道と隆盛という兄弟関係の呪縛とそこから救済の願いを従道邸の南側一重ベランダと二重ベランダの姿に重ねて想像してみる。明治維新の苦渋に満ちた青春増の一断面が窺えるのである。



写真6 1階食堂の再現展示



写真5 舞い昇る手摺は天井廻り縁の同蛇腹漆喰模様が呼応する



写真4 2階の磁製暖炉には日本三景のほかに天板には富士山が描かれている



写真8 正面全景



写真7 1階2階ともサービス通路が設けられている

### 主な参考文献

- 註1 参考文献(5)参照
- 註2 参考文献(3)参照
- 註3 参考文献(6)参照
- 註4 参考文献(3)参照
- (1) 公益財団法人明治村西郷従道「元帥 西郷従道 伝一九八一年 芙蓉書房
- (2) 公益財団法人明治村「博物館明治村五十年史」二〇一八年
- (3) 平井育男「旧西郷従道住宅の建築年代と住宅の整備について」(日本建築学会計画系論文集 第七二八号)二〇一六年
- (4) 福田晴彦「日本の民家 8 洋館」一九八一年 学芸出版社
- (5) 財団法人明治村「明治村建造物移築工事報告書 西郷従道邸・東松家住宅」一九七八年
- (6) ウィング・クラフト、後藤和雄編「ボンジュール ジャパン フランス青年が活写した1882年」一九九八年 朝日新聞社
- (7) 重森三玲「日本庭園図鑑 第二十巻」一九三七年 有光社

# 理化学実験場ができるまで (二)

## 一 はじめに

前号では、幕末にイギリスへ渡った、長州五傑・薩摩留学生についてご紹介いたしました。今回はドイツの化学者リービッチ (Liebig, J.)、ウィリアムソンと並ぶリービッチの直弟子：ホフマン (Hofman, A.W.) とそこに学んだ日本人留学生・長井長義を紹介し、ヨーロッパの先進的な化学教育と、化学教育を行う施設である理化学実験場がどのように日本へもたらされたのかを紹介させていただきます。

## 二 リービッチ (一八〇三ー一八七三)

リービッチ (写真1) は、ドイツ・ダルムシュタットの染料や顔料などを扱う薬種商の家庭に生まれました。父は家に設けられた実験室で、薬品製造を行うという、化学的素養にあふれた家庭でしたが、リービッチは学校での勉強に馴染めず十五歳でギムナジウムを中退しました。その後、徒弟として薬局で働き薬剤師となり、さらに学



写真1 リービッチ



写真2 リービッチの講義室(註1)



写真3 リービッチの講義室に隣接する学生実験室(註1)



写真4 第四高等学校物理化学教室



写真5 第四高等学校物理化学教室用意室(化学)

問を深めるためにボン大学へ進学。指導教官のエアランゲン大学への転勤に伴い、リービッチも転校しましたが、大学でのトラブルで退学となりました。

幸いにもヘッセン大公ルードヴィヒ (ルードヴィヒ一世) からの奨学金を得て、パリ・ソルボンヌ大学へ留学。シャルルの法則の発見者の一人とされるゲイリュサック (註2)、フンボルト (註3) の知己を得ました。ドイツへ帰国後リービッチはフンボルトの推薦により、ギーゼン大学の教員となりました。リービッチ、二一歳の時です。そして、その翌年には前任教授の急逝により、教授に昇進。

リービッチは大学に対して、「実験なき化学は空虚なごまかしの学問に過ぎない」、「従来の耳で聞く講義を目で見る講義とし、学生実験を通してすべての学生に自らの手で実験を行わ

せる」実験室の設置を要求し、苦難の末、実現にこぎつきました。たった十二坪に満たなかったギーゼン大学の実験室は、講義室を天秤室に変え、面積は八十坪程となり、最終的には二十を超える実験台を有した百五十坪あまりの規模に拡大されました。ここに学生実験室を備えた近代の化学教室の礎、近代日本へもたらされた化学教室が完成したのでした。

リービッチの実験室は、現在リービッチ博物館として遺され、見学することができます。その実験室を見ると写真2、写真3、前号でお見せしたUCL演示型の講義室と学生実験室の関係、そして博物館明治村に移築されている第四高等学校物理化学教室の講義室と隣接する用意室 (準備室) (写真4、写真5) の関係との共通点に気づくことができます。黒板が隣室との藥品などを受け渡す窓口となっており、その左右にはドラフトチャンバーが設けられていることも確認できます。

リービッチは有機化学の分野の研究を中心に行っていました。一八四〇年を境に応用科学の分野への関心が高まっています。化学を人

類の福祉に貢献する社会的に有用なものにしようと考えたのです。

長い間ギーゼン大学で教えていたリービッチですが、バイエルン国王マクシミリアン一世の招きで、ミュンヘンへ移り、ミュンヘンが終の棲家となりました。

リービッチは自身の研究において、19世紀を代表する化学者であるとともに、教育者として多くの研究者を育て、その教え子の数はドイツ・ヨーロッパのみならず、北米・南米の延べ約千五百人にも及び、リービッチの提唱する実験を中心とする化学教育が一気に世界中へ広がって行くことになりました。

## 三 ホフマン (一八一八ー一八九二)

前号でご紹介したウィリアムソンとともに、リービッチの化学教育を広めることに一役買ったのが、ホフマン (写真6) です。

ホフマンはドイツ・ギーゼンに生まれ、当初は大学で法律を学びました。後に父がギーゼン大学のリービッチの化学実験室建設に携わったことから、化学に転じリービッチの許で学び、コールトールの研究で学位を得ました。

卒業後、ホフマンはリービッチの助手を務め、ボン大学教授を経て、イギリスへ渡り王立化学学校校長となります。

イギリスでは数多くの化学者を輩出していますが、18世紀半ばから起きた産業革命により、工業化は著しく進歩した半面、逆に第一次産業での停滞が課題となっていました。そこで応用化学、特に農業分野の農芸化学で顕著な功績のあるリービッチ (写真6) は、



写真6 ホフマン

に助けを求め、弟子であるホフマンが派遣されることとなったのです。しかし、ホフマンは農業分野にはあまり関心がなく、力を発揮することはありませんでしたが、化学教育の面で、イギリスの化学会を牽引し、後継者の養成に大きく寄与しました。当初二年の予定で渡英したホフマンですが、イギリスでの滞在は二十年に及びました。一八六四年に帰国、ボン大学を経て、ベルリン大学で教鞭を執りました。そのホフマンの許で学んだのが、長井長義です。

## 四 長井長義 (一八四五ー一九二九)

長井 (写真7) は徳島藩の藩医の家に生まれ、幼少期より漢学・蘭学を学び、藩命によって長崎で、医学や化学を学びました。

一八六九 (明治二年)、東京の大学東校に学び、二年後に明治政府の第一回欧州派遣留学生としてドイツ・ベルリン大学に留学し、ホフマンの許で学びます。卒業後もホフマンに請われ助手として研究室に残り、十三年間のベルリンでの研究生活を経て、帰国したのは一八八四年のことです。そして同年勅令によって定められた博士号の制度により、初の理学博士の一人となります。

長井はベルリン大学での授業の体験を「紙上の空論なく、皆実験し逐一試験し、その証拠を見せ、耳目精神の三つ因て学ぶ。だから早く理解でき、記憶しやすい」と回顧しています。

帰国後の長井は、東京大学教授や大日本製薬会社製薬長などを歴任し、現在でも風邪薬などに用いられるエフェドリンの発見や出身地徳島の名産品である藍の分析なども行



写真7 長井長義

いました。さらに教育にも力を注ぎ、地元徳島の高等教育機関や、富山・熊本の薬学専門教育機関の設立、日本女子大学など女性への化学教育を導入しました。

## 五 ヨーロッパと日本を結ぶもの、理化学実験場

ドイツ・ギーゼンでのリービッチの化学教育が、その教え子を経由して、広まっていく様子は想像に難くありません。そして、リービッチの化学教育を体现するためには実験室の存在が不可欠です。

化学教育が、明治政府の「富国強兵」というスローガンを達成するために必要不可欠な学問であることを、のちに明治政府の要職を務めることになったイギリスへ渡航した留学生たちは、実感したことでしょう。

そのことは遠藤謙助や井上馨による紙幣寮留學生派遣事業、伊藤博文や山尾庸三による工学校 (のちの工部大学校)、畠山義成が初代校長を務めた東京開成学校 (のちの東京大学)、そして初代文部大臣として近代学校教育制度を改革した森有礼などの実績からも知ることができます。



参考図

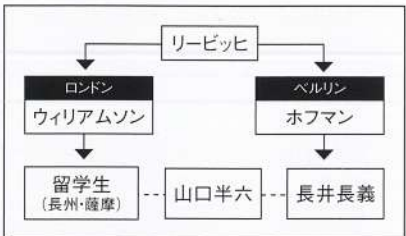


図1 第四高等学校物理化学教室につながる化学者相関図

化学教育実践の場としての理化学実験場は、どのように実現したのでしようか。建築家として理化学実験場を実現させたのは前号冒頭でご紹介した山口半六です。山口は東京開成学校での畠山の

教え子であり、各高等学校設計にあたって特に理化学実験場については長井と連携していたことが示唆されています (図1)。

日本国内の五カ所に建設された高等中学校の理化学実験場には、ヨーロッパにおいて最新の理化学実験場が導入されました (図2)。そこには、政治家だけでなく、化学者だけでなく、建

築家だけでなく、かわるすべての人が一丸となって、近代国家としての日本を築き上げていくという心意気を見ることが出来ます。

※註1 「Das Liebig Museum in Gießen」より転載  
 ※註2 ゲイリュサック (GAY=LUSSAC, J.L. 一七七八ー一八五〇) フランスの化学者、物理学者。  
 ※註3 フンボルト (HUMBOLDT, F.H.A. 一七六九ー一八五九) ドイツの博物学者、地理学者、探検家。

参考文献  
 園部利彦 一九九五年 『化学者―話―化学が歩んだ道―』 近代文藝社  
 原田 馨 二〇〇七年 『ドイツの切手に現れた科学者、技術者達(1)』 エスタス・リービッチ 『ケミカルサイエンス』 2014号 (関東化学株式会社)  
 化学史学会編 二〇一九年 『化学史への招待 オーム社』  
 金尾清造 一九六〇年 『長井長義伝』 日本薬学会  
 Yoshiyuki KIKUCHI 2013. ANGLo-AMERICAN CONNECTIONS IN JAPANESE CHEMISTRY. Palgrave-Macmillan



写真1 現在の「工部省品川硝子製造所」(博物館明治村内)

「工部省品川硝子製造所」は、明治九(一八七六)年四月、現在の東京都品川区北品川に設立された官営ガラス製造工場でした。この工場は明治六年設立の民間ガラス製造工場を工部省(インフラ整備と殖産興業を推進した官庁)が丸ごと買い取った施設でしたが、経営難から明治十八年には再び民間企業へ売却されました。この

## 工部省品川硝子製造所跡出土の瓦と耐火煉瓦

4丁目45番地 工部省品川硝子製造所

民営ガラス製造工場「有限責任品川硝子会社」では日本で初めてビール瓶を製造するなど工業ガラス製品を手がけていましたが、やがて経営が立ちゆかなくなり、明治二十五年に幕を下ろしました。その後、製薬会社の施設として利用されたのち、昭和四十五(一九七〇)年、工場内の一棟が博物館明治村へ移築されて現在に至ります(写真2)。

さて、移築に先駆けて昭和四十三年、品川硝子製造所の窯跡の調査が東京文化財研究所長を中心とした調査委員会によって実施されました。この時発掘された遺物は現在、博物館明治村に保管されています。この中に「植松直正製」と陰刻された、表面が黒灰色を呈する平瓦片があります(写真2)。これは、明治六年頃から明治



写真2 「植村直正」製 平瓦片



写真3 (上)「ISEKATSU」印煉瓦 (下)「STAR BRICK MITSUISHI」印煉瓦

### 参考文献

青木祐介「特集 西洋館とフランス瓦—横浜生まれの近代産業」『横浜都市発展記念館報 ハマ発News letter』第13号(2010年2月)  
青木祐介・坂上克弘・中野光将「品川硝子製造所出土遺物の調査—博物館明治村保管の模倣ジェラルド瓦・煉瓦の様相—」『東京考古』No.37、2019年5月

後期頃まで横浜でフランス人実業家ジェラルドによって製造されていた「フランス瓦」を模した、国産洋風瓦です。ジェラルドの瓦は洋風建築の隆盛とともに人気を得、直ぐに国産模造瓦が幾種類も登場したようです。この「植松直正製」瓦は、おそらくガラス製造所の初期に遡るころができる模造洋風瓦の貴重な資料です。また、窯に使用された耐火煉瓦には「ISEKATSU」「STAR BRICK MITSUISHI」といった欧文が陰刻されたものが混じっています(写真3)。「ISEKATSU」印の煉瓦は、官営品川硝子製造所を明治十八年に買収した事業者・西村勝三の耐火煉瓦工場「伊勢勝白煉瓦製造所」製。「STAR BRICK MITSUISHI」は昭和初年頃に岡山

県備前市で操業していた三石星煉瓦製造所製かとも考えられていますが、今後の研究課題です。  
昭和四十三年のガラス窯跡調査では、こうした現存資料の少ない貴重な模造洋風瓦や耐火煉瓦のほか、多数のガラス塊・容器片も出土しています。博物館明治村に移築された平屋建ての煉瓦造りの一棟は、残念ながら面図からみて、この窯のあった建物ではなく、品川硝子製造所の様々な煉瓦造りの建造物の中の一棟であったといふことが分かっています。しかし、当館が保管している出土遺物は、板ガラスや各種ガラス容器などを製造する近代的なガラス工場として稼働していた品川硝子製造所のすがたを知る手掛かりとなる、重要な出土資料です。



## 「移民の家」が見ついた絆

4丁目39番地 ブラジル移民住宅

ブラジル国旗が傍らにはためく四丁目のブラジル移民住宅は、ブラジルに渡った日本人移民・久保田安雄氏が大正六(一九一七)年にサンパウロ州レジストロ市に建てた木造二階建ての住宅です。久保田氏は妻とともに、原始林を切り開き、自営農として米やコーヒ、トウモロコシなどの栽培をしながら、入植三年目に日本人大工三名と協力してこの住まいを建てました。室内では、明治四十一(一九〇八)年以来、ブラジルへ渡った

明治村に久保田氏の住宅が移築された当初(昭和五十一(一九七五年)、室内では実物資料の展示がなかったことから、予てよりブラジル日本文化協会に依頼し、展示資料の寄贈をお願いしていました。そして三年後の昭和五十三(一九七八)年、日本人が移民としてブラジルに初めて入植してから七十周年を記念して、ブラジル日本文化協会がサンパウロ市に「ブラジル移民史料館」を建設しました。明治村の資料は、この「ブラジル移民史料館」の開館のためにブラジル全土から集めた一万数千点の資料のうち、重複するものを寄贈いただきました。明治村は、久保田氏の住宅及び資料の寄贈の返礼として、移民船「笠戸丸」の模型を二隻製作し、その一隻を「ブラジル移民史料館」の開館に合わせて寄贈しています。もう一隻は、現在も室内に展示中です。寄贈資料は同年一月にサンパウロ市から日本郵船「隅田丸」に積み込まれ、三月に名古屋港に到着しました。写真2は通関検査を受けている最中です。寄贈いただいたものは全部で四十七点で、その半

数を現在展示中です。展示資料をご紹介します。一階には、トウモロコシの脱粒器やブラジルの家庭料理フレイジョンと呼ばれる豆用の篩、穀類の播種器などの農具を展示しています(写真1)。斧や大きな鋸もあり、入植初期に密林を自ら切り開いていった移民たちを想わせます(写真2)。二階にはコーヒ栽培に使ったブラジル特有の農具を展示しています(写真3)。別室にはケース内に移民が手ずから作った尺八も展示中です(写真4)。尺八をはじめとした和楽器は移民によってブラジルの日系社会へと持ち込まれ、現在では日系社会を越えて普及しています。  
海、そして時代を越えて明治村へやってきたこれらの資料は、移民たちが実際に手に取った土の香りがする生活用具であり、異国の地での開拓の苦難を静かに物語っています。



写真1 一階展示



写真3 一階展示



写真4 二階展示



写真5 尺八(二階に展示中)

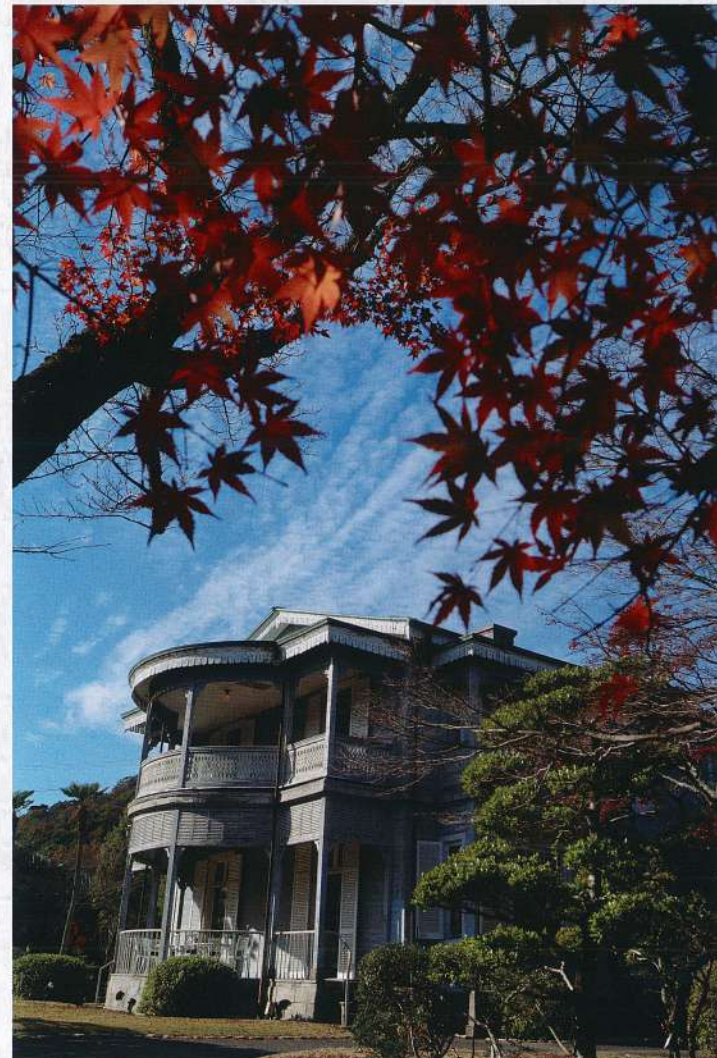
注 明治四十一(一九〇八)年、第一回日本移民七八一名をブラジルに輸送した。

# 明治村写真コンテスト 紙上展覧会

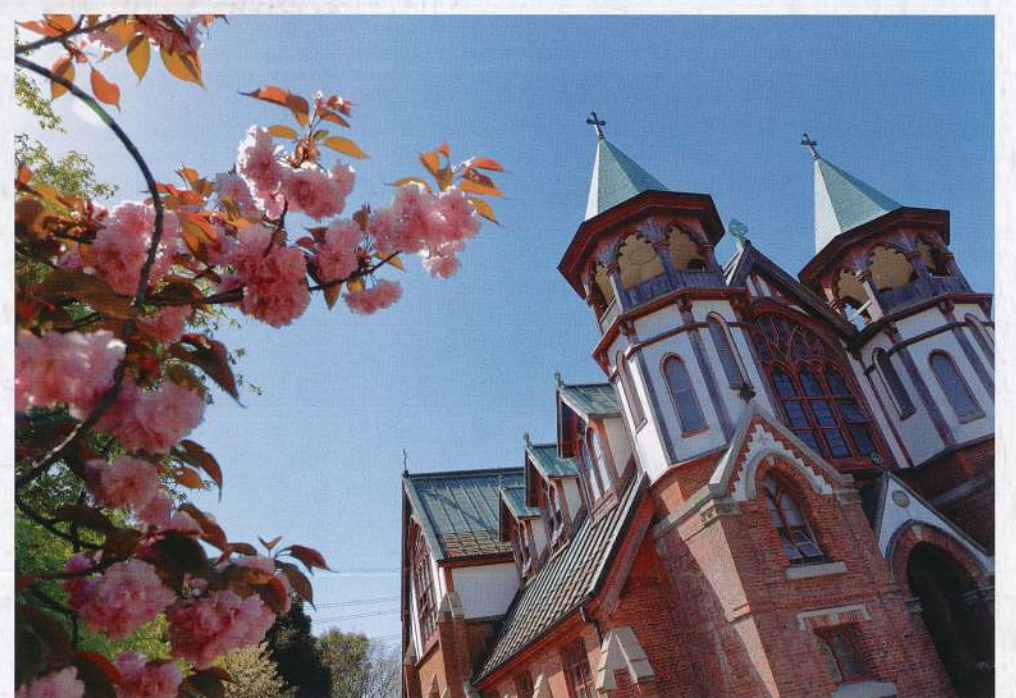
令和2年7月から令和3年6月までに「応募いただいた明治村写真コンテスト「明治村百景」の受賞作品の一部をご紹介します。四季折々に姿美しく変える明治村の風景をとらえた作品、また、明治村ならではの催し物、歴史的建造物を斬新な視点で切り取った作品をぜひご覧ください。



**明治村大賞**  
「秋日和」前田憲和



**村長賞**  
「春の聖ヨハネ教会堂」  
宮本 奈々

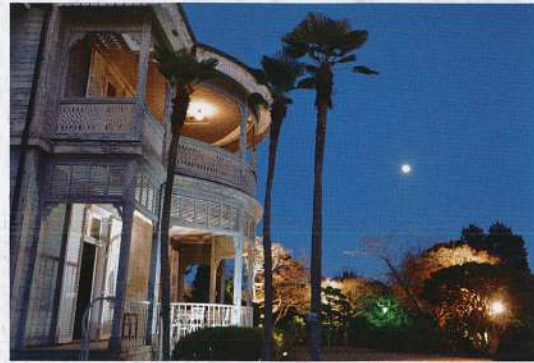


令和3年12月12日(日)まで  
東山梨郡役所2階にて  
入賞作品展開催中

(敬称略)

## 入賞者一覧

賞名	タイトル	撮影者	
明治のある風景賞 入賞	めがね橋のイルミネーション	渡邊 道雄	
鉄ショット賞 入賞	市電旋回	横山 廣司	
フェスティバル賞 入賞	ショータイム	大口 寛	
季節のうつろい賞 入賞	発車	土赤 幸二	
坂の上の雲ミュージアム賞	夕映えに月昇る	江坂 昌己	
坂の上の雲ミュージアム賞	迫り来る時	木全 秀雄	
坂の上の雲ミュージアム賞	前庭の薄氷	二村 研次	
坂の上の雲ミュージアム賞	タイムスリップ	長谷 洋子	
坂の上の雲ミュージアム賞	雨上がり	丹羽 明仁	
協賛会社賞	ピックカメラ賞	橋からの眺め	武山富久夫
	ピックカメラ賞	光の道	鈴鹿 香
	ピックカメラ賞	傘の彩	西部 信行
	ハクバ写真産業賞	帝国ホテルより	高木 一博
	ハクバ写真産業賞	古(いにしえ)	梶原 臣和
	CAPA賞	ウェルカムフラワー	太田 宣行
	CAPA賞	新緑のSL	山本 訓之
審査員特別賞	家路	奥村 和夫	
	梅雨の晴間	柴田 光弘	
	秋立つ京都市電	西岡 誠美	
	傷病慰問	中村 和夫	
	光に包まれて	三須 美樹	
	夏の想い出	新田 博之	



特賞

明治のある風景賞  
「宵の西郷邸」  
熊沢敏裕



特賞

フェスティバル賞  
「朱に染まる夜」  
中根弘明



特賞

鉄ショット賞  
「晩秋を行く」  
平松真



特賞

季節のうつろい賞  
「新緑に浮かぶ看守所」  
櫻井茉瑠

## 明治村写真コンテスト「明治村百景」募集要項

【応募期間】2021/7/1～2022/6/30

- テーマ 明治村を表す作品  
明治村の四季折々の美しさや賑わい、明治村を楽しむ人々の心温まる風景やイベントの様子
- 締切 2022/6/30(必着)
- 審査 明治村で選考した委員
- 発表 2022年8月末までに本人宛に通知
- 表彰式・作品展 2022年秋を予定
- 主催 博物館 明治村
- 協賛予定 坂の上の雲ミュージアム、ハクバ写真産業株式会社
- 応募及び問合せ先 〒484-0000 愛知県犬山市内山1番地 博物館明治村 写真コンテスト係  
電話 0568-67-0314 FAX 0568-67-0358
- 賞  
明治村大賞……………1点 賞金10万円・賞状・記念品  
村長賞……………1点 賞金3万円・賞状・記念品  
明治のある風景賞……………2点 賞金・賞状・記念品  
建物や村内の風景をおさめた写真が対象(特賞1名:賞金2万円 入賞1名:賞金1万円)  
鉄ショット賞……………2点 賞金・賞状・記念品  
SLや京都市電など乗り物の写真が対象(特賞1名:賞金2万円 入賞1名:賞金1万円)  
フェスティバル賞……………2点 賞金・賞状・記念品  
村内で開催されたイベントの写真が対象(特賞1名:賞金2万円 入賞1名:賞金1万円)  
季節のうつろい賞……………2点 賞金・賞状・記念品  
季節を感じられる写真が対象(特賞1名:賞金2万円 入賞1名:賞金1万円)  
坂の上の雲ミュージアム賞……………5点 賞状・記念品  
ハクバ写真産業賞……………2点 賞状・記念品  
審査員特別賞……………10点程度 賞状・記念品

合計 27点程度

※賞や賞品等について、予告なく変更する場合があります。

# 明治村音楽祭

文明開化で普及しはじめた音楽の数々。当時から親しまれる曲や楽器、また初めて知るような音楽など、芸術の秋を感じる多様な音楽を体感ください。

会場／帝国ホテル中央玄関前芝生広場特設ステージ ※雨天時は会場が変更となる場合があります。

## オープニングコンサート

明治時代の音楽事情や、「音楽祭」の出演アーティストについてご紹介します！バリトン・平林龍氏のコンサートも必見です。  
開催日／9/18(土) 時間／13:00～ 司会／明治偉人隊(松井 須磨子、瀧 廉太郎) 出演／平林 龍(バリトン)、杉浦 哲郎(ピアノ)

鉄道唱歌	唱歌	音楽隊	ギター
開催日／9/25(土) 時間／①12:00～②14:30～(各回約30分) 出演／スギテツ(ピアノ)杉浦 哲郎、ヴァイオリン:岡田 鉄平)	開催日／10/2(土) 時間／①12:00～②14:30～(各回約30分) 出演／明治偉人隊(樋口 一葉、瀧 廉太郎)	開催日／10/9(土) 時間／①12:00～②14:30～(各回約30分) 出演／陸上自衛隊 第10音楽隊	開催日／10/16(土) 時間／①12:00～②14:30～(各回約30分) 出演／名古屋ギター女子部

## きもで歩く明治村

期間 11/1(月)～30(火)

趣ある秋の明治村をきもで散策して自分だけの写真を撮ろう!

期間中、きもでご来村の方は  
**入村料半額!**  
※浴衣・甚平・作務衣は対象外です。

**女性限定 きもの着付け体験**  
※雨天中止

開催日 11/13(土)～21(日)の土日  
受付時間 10:00～14:30 料金 1,000円(90分)  
会場 学習院長官舎 協力/(一財)民族衣装文化普及協会

犬山日和コラボ企画 きもで明治村を楽しもう!

“きものフォトプラン” in 明治村 事前予約制

レトロ感いっぱいの明治村を、モデル気分で撮影しませんか。プロカメラマンが同行しながらおススメの建物を背景に撮影します。

日時 11/17(水)、11/24(水) ※雨天決行

参加料 おひとり様4,950円 ※入村料等別途必要 ※人数制限あり

参加条件 着物を着てご来村頂ける方、1グループ最大4名様まで

犬山日和では  
きものを特別価格で  
レンタルできて  
お得!

きものレンタルと明治村入村券のお得なセット!

お気に入りのきものを着て、趣いっぱい明治村を散策しよう!

4名様以上同時にご利用  
いただくとさらにお得!

期間 11/1(月)～30(火)

料金 4,300円 ※大人のみ設定(男性用もご用意しております)(明治村入村料、きものレンタル・着付け料込み)

きものレンタル・入村券セット販売箇所／着物&浴衣レンタル 犬山日和(大田市犬山東古券195)

※明治村でのお取り扱いはございません。

ご予約・お申込み・お問合せ

着物&浴衣レンタル 犬山日和 TEL:0568-61-2532

## 明治偉人隊

偉人物語・明治偉人隊公演

偉人自らが人生をドラマチックに語る一人芝居や、歌と華麗な踊りの偉人隊野外公演をお楽しみください。  
※出演者は開催日により異なります。※入場制限をする場合がございます。

公演スケジュールなど、詳細は明治村公式HPおよび、明治偉人隊公式SNSをご覧ください。

Twitter ▶



## 明治村カレーフェア

9/11(土)▶12/12(日)

明治時代に初めて国産カレー粉として製造された「蜂カレー」を使用したグルメや、当時の恋愛小説「食道楽」に登場するレシピを再現・アレンジした「食道楽のカレー」など、明治から多くの人々に親しまれる「カレー」をテーマに大集合。  
その他の飲食・売店でも開催! ※売り切れの際はご容赦願います

## 明治村写真コンテスト入賞作品展

期間 9/11(土)～12/12(日)

会場 東山梨郡役所2階

2021年度大賞作品「秋日和」▶

## 明治村学芸員の小部屋

今回のテーマは、「青少年赤十字」

期間 10/16(土)～12/12(日) 会場 三重県庁舎

## 秋のウェディング現地相談会

「本物」の歴史的建造物を舞台にした挙式・披露宴やフォトウェディングなどの会場としてご提案します。

開催日 9/26(日) 会場 名鉄岩倉変電所

開催等の詳細および、お問合せ・ご予約／明治村ウェディング・アニバーサリーフォトデスク TEL:0120-108-716

## 鉄道の日企画「SLといっしょに撮影会」

事前予約制 「鉄道の日」にちなみ、人気の蒸気機関車を背景にプロカメラマンがお子様を撮影します。

日時 10/10(日) ※雨天中止

参加条件 2～7歳までのお子様 ※1家族最大5名様まで

参加料 1家族1,100円(記念ショット1ポーズとなります) ※入村料等別途必要 ※組数制限あり

ご予約・お問合せ／明治村ウェディング・アニバーサリーフォトデスク TEL:0120-108-716

## 品川燈台特別展示

11/1の「灯台記念日」にちなみ、イベントを開催いたします。

期間 10/29(金)～11/1(月) 時間 10:00～15:00

協力／第四管区海上保安本部、(公社)燈光会、(公財)海上保安協会東海地方本部

## 博物館 明治村 ×

## 「恩物」の世界ードイツの知育玩具ー



1960年代の「恩物」



「第6恩物」たても遊び

19世紀ドイツの教育者フレーベルが考案した「恩物」は、遊びを通じて幼児の自由な発想と感性、自然法則への理解を促す幼児のための一連の知育玩具です。本展覧会は明治期の日本へ伝えられた20種類の知育玩具「恩物」が幼児教育の中でどのように受け入れられ、子どもたちの創造力や表現力を養ってきたかをご紹介します。

9/11(土)▶12/12(日)

会場／千早赤阪小学校講堂  
料金／300円 ※中学生以下は無料  
主催／博物館明治村  
協力／株式会社フレーベル館  
後援／愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会

画像提供／株式会社フレーベル館

## 事業着手 つみきひろば Gabe

2022年春OPEN予定!

株式会社フレーベル館との共同企画として、同社創業と同じ明治40年に創建され、日曜学校や幼稚園として使われていた「聖ヨハネ教会堂」で、世界中の子どもたちに不変の価値を提供し続ける「恩物」からつながる「積み木」や「教育玩具」で遊ぶことができる空間をご提供いたします。

